実施した交流プログラムの概要

資料６－１

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

✓修士課程を中心、数週間から半年、一年の留学

４つの力を有する「フロンティア人材育成」

- フィールド研究力
- 多様性容認力
- 開拓力
- 課題解決力
- 国際性の涵養
- 全人教育
- フロンティア精神
- 実学の精神

分野横断的講義

外国・異文化・異分野の学生と協働 **グループディスカッション**

分野横断的＆専門的フィールドワーク

外国・異文化・異分野の学生と協働あるいは個々の学習成果を **プレゼンテーション**

インドネシア
- ボゴール農科大学
- バンドン工科大学
- ガジャマダ大学

タイ
- チュラロンコン大学
- カセサート大学
- タマサート大学

基礎論Ⅰ（１単位）：人間の活動と環境負荷（農学，環境科学）

基礎論Ⅱ（1単位）：食料・環境・健康の連環（農学，水産科学）

基礎論Ⅲ（1単位）：資源の開発と管理（工学，情報科学）

基礎論Ⅳ（1単位）：持続可能な開発への強靭性（Interdisciplinary）

基礎科目

基礎論Ⅰ~Ⅳ
➡ PARE連環に係る要素の理解

ショートプログラム
サマー・スプリングスクール
➡ 課題解決の実践訓練

発展科目

「４つの力」に関連する各大学院の特色ある科目を受講

専門科目

ASEAN各校で課題現場に主軸を、北大で研究室に主軸を置く研究・実習科目を受講

＋

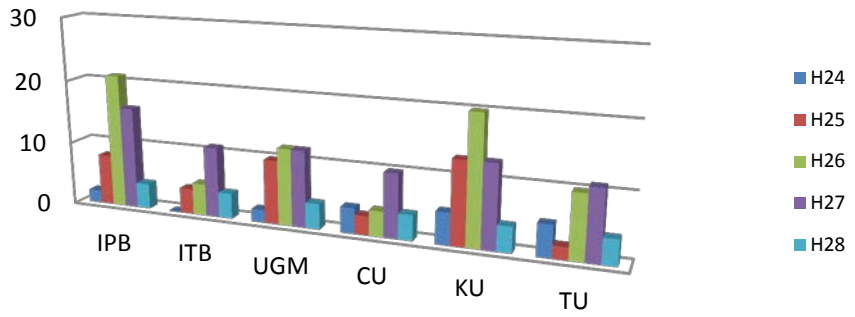
修士論文

異分野専門家ネットワークの形成

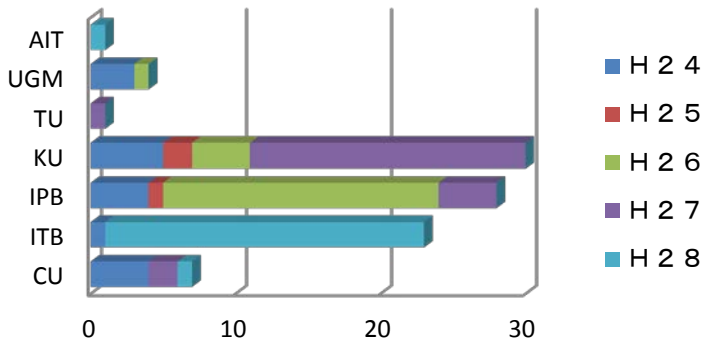
実績

		H24	H25	H26	H27	H28（予定）
派遣学生数	3か月未満	16	0	22	20	22
	3か月以上	1	3	2	6	3
受入学生数	3か月未満	18	28	41	33	24
	3か月以上	0	12	31	40	6

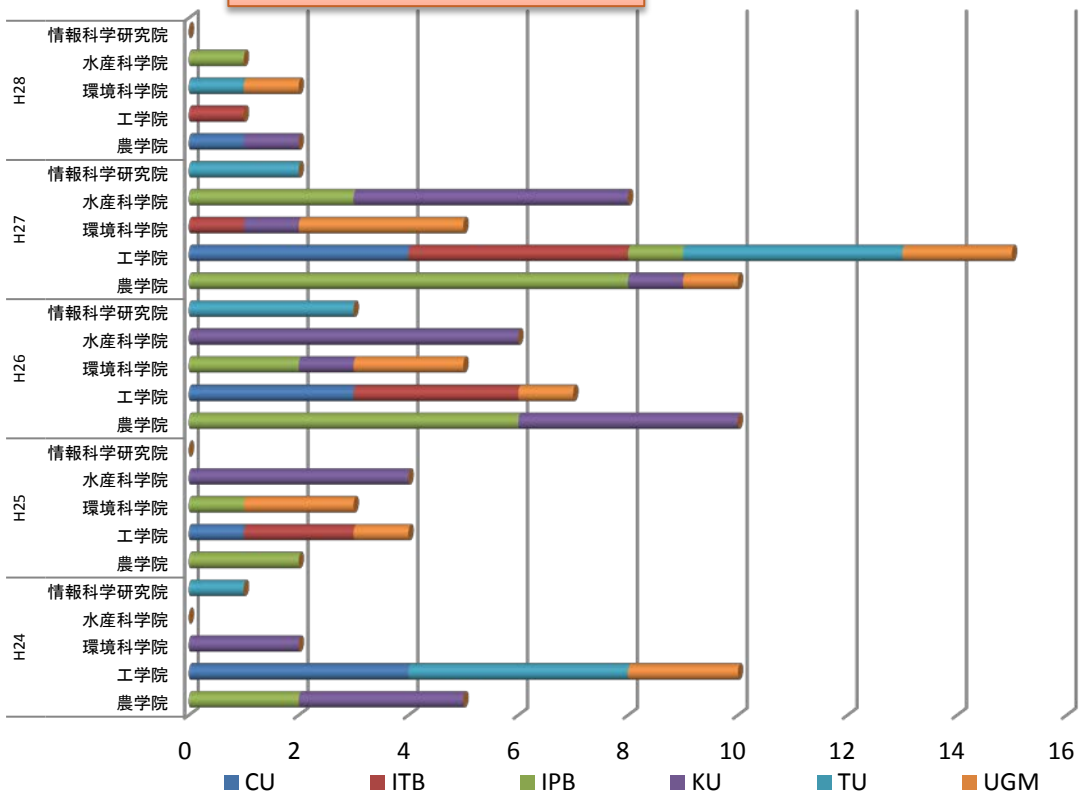
受入（長期・短期） 所属大学別



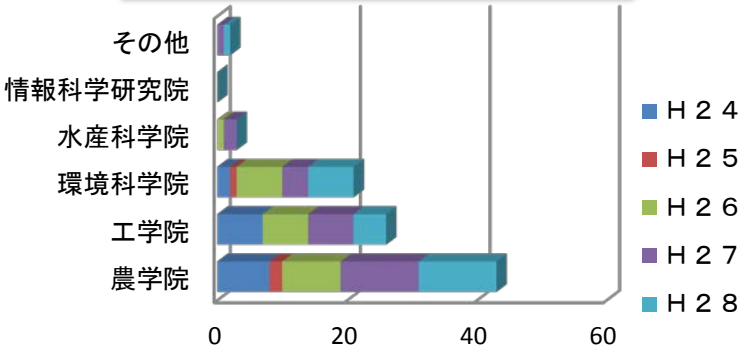
派遣（長期・短期） 派遣先大学別



受入（長期） 所属部局別



派遣（長期・短期） 所属学部別

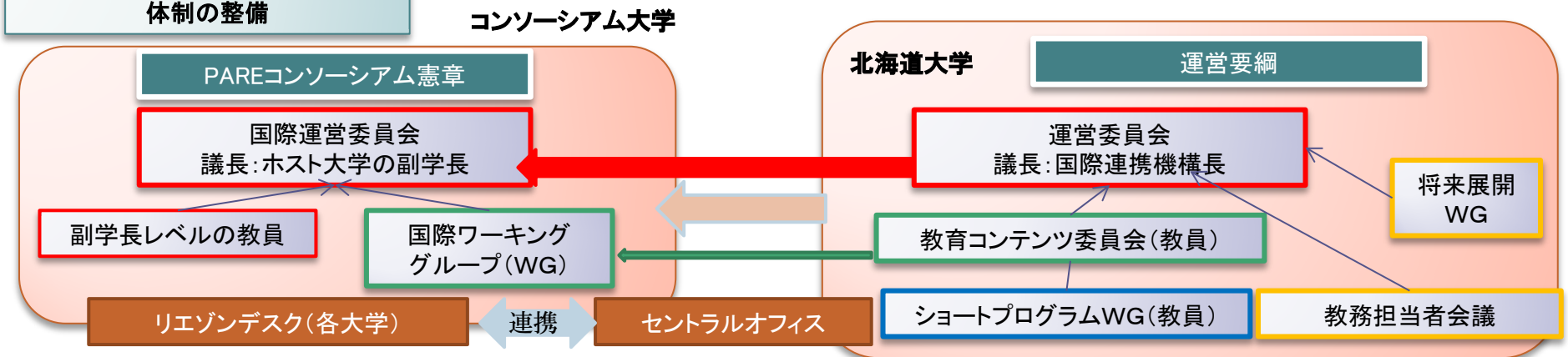


質の保証を伴った交流枠組み（相互単位認定、共同学位プログラム等）の形成

共同修了証の要件

授業科目		本学における科目名	単位数	修了要件	評価
PARE 基礎科目	PARE基礎論（選択必修科目）	PARE基礎論I PARE基礎論II PARE基礎論III PARE基礎論IV	各1単位	2単位以上	PARE基礎論では、e-ラーニングを実施し、グループ討論、プレゼンテーション、レ ポートで総合評価。
	PARE ショートプログラム（必修科目）	PARE演習	2単位	3単位	PAREショートプログラムは、講義、フィールド実習、演習で構成する2週間の短期プ ログラム（北海道でのサマースクール、インドネシアあるいはタイでのスプリングス クール）。定員は40名。学生は、国、専門を異にする者たちで4－5名のグループとなり、プログラム前半の講義とフィールド実習を通してグループとしての取組目標を定めて中間発表。後半では、その目標に必要な情報を、講義や実験室での分析、解析を 通して収集し、それらを総合した最終のプレゼンテーションを行う。中間、最終プレ ゼンテーションと、個別に提出する4つの力に対する事前・事後の自己評価およびレ ポートで総合評価。
		PARE実習	1単位		
PARE 発展科目 PARE 専門科目	母国以外の大学で、PAREコンソーシアムに加盟している大学に留学の上、該当科目を受講（選択科目）		－	2単位以上	留学中に受講する発展科目・専門科目は、シラバスに基づき、それぞれの学生の所属 部局において単位互換する。
			合計	7単位以上	➢ 科目単位の評価は、シラバスに記載した成績評価基準に基づき行われ、成績は大学間で等価で認定。 ➢ PARE基礎論2単位以上、PAREショートプログラム3単位以上、発展科目と専門科目2単位以上で合計7単位以上であるとともに、修了認定のプレゼンテーションにおいて、80点以上の評価を得た学生に、「PAREプログラム共同修了証」を発行。

体制の整備



プログラム参加後の学生のフォローアップ・出口対策

ウェブサイト＆SNSの活用

- 本プログラムのウェブサイトに参加学生の体験談を載せるとともに、フェイスブックに公式ページを作成し、活動内容や卒業生の現在、プログラム参加の経験などを学生間で共有できる環境を整備した。
- フェイスブックにプログラム参加者・卒業生を対象としたグループを立ち上げ、コミュニケーションの促進を図り、プログラム修了後も交流を続けられるよう支援すると共に、今後PARE同窓会の立ち上げやアンケート調査などを行う際の基盤形成をした。

キャリア支援

- PAREプログラムに参加した学生が、本学の人材育成本部の情報にアクセスしやすくするため、ホームページ上でリンクするとともに、キャリア支援となる講演・講義に参加できるように環境を整えた。
- 本プログラムにおいてインドネシア、タイのパートナー大学から受け入れる学生は、プログラム修了後、自国に戻り学位を取得することが前提であるため、日本において就職活動を行うことは基本的に無いと考えるが、将来的に日本での就職を希望する学生が本学の人材育成本部が主催するキャリア・カウンセリングなどの情報を得ることが出来る環境をウェブ上で提供した。

OB・OG会合

- 在インドネシア及びタイの日本企業並びに北海道人会、本学OBを訪問し、PAREプログラムへの理解と協力を求めた。
- インドネシアとタイで、本学の同窓生向け懇談会の計画を立て、「PAREショートプログラム」開講に合わせ、開催した。
- 2017年2月にインドネシア・ジャカルタで開催予定の国際シンポジウムにおいて、PAREプログラムの卒業生、在インドネシアの日本企業および本学OBの交流の場を設定し、PARE同窓会への立ち上げの更なる環境整備、支援を行う予定である。

情報の発信・成果の普及

普及体制の基盤構築

- 当初から本プログラムの成果は、本学の他の12大学院へ普及することを念頭に委員会やサポート機能を構成している。パートナー6大学についても、副学長並びに全学の国際担当部署に、各大学におけるプログラム運営の機能を集約したため、本プログラムの成果が広く迅速に共有できる体制となっている。
- このように関係者間での成果普及の体制は平成24年にその基盤が構築できた。

会議での活動報告・プログラム紹介

- 2016年10月に札幌で開催された第42回日本・ASEAN経営者会議に、本学教員とPAREプログラム修了生数名が参加し、プログラムを通しての経験・達成などについてプレゼンテーションを行い、成果の普及に努めた。
- 他大学と成果を共有することを目的に教育交流勉強会を開催した。平成25年度には、慶應義塾大学および神戸大学の教員を招聘し、「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」と題して開催。平成26年度には慶應義塾大学の教員を招聘し、オンラインによる授業運営に関する最新の教育方法に関して学ぶ機会を持った。また、平成27年度には「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」をテーマに教育交流研究会を開催し、大学院（修士課程）熱帯水産学国際連携プログラムをタイのカセサート大学等と共同で運営している鹿児島大学水産学研究院との間で、情報交換を行った。
- 本学教員が、大学関係者が集まる国内外の会議、インドネシアの教育省、JICA事務所およびERIA等の機関で本プログラムを紹介した。

懇談会・国際シンポジウムの開催

- タイとインドネシアに在住する本学同窓生や日系企業と面談し、PAREプログラムについての説明を行ったことにより、今後インターンシップや学生と企業との交流会を行うための本プログラムへの理解の醸成とネットワークの基盤を整えた。
- 上記のことがきっかけとなり、タイとインドネシア在住の本学同窓生との交流が全学規模で始まり、本学総長と理事が参加する同窓生向け懇談会をタイとインドネシアで開催した。
- 2017年2月にインドネシア・ジャカルタにおいて、内外の本プログラム関係者を招聘し、国際シンポジウムを開催し、本プログラムの成果の普及に努める予定である。

今後の展開

既存の仕組みを利用

・世界から研究者を招へいし，本学教員と協働で教育活動を実施するサマープログラムHokkaido Summer Instituteに「PARE基礎論I～IV 」「PARE実習I・演習I」 の科目を登録、また「PARE実習II・演習II」および「PAREインターンシップ」を大学院共通授業科目として登録し、学生が引き続きと履修できるように体制を整えた。
・ラーニングサテライト制度を利用し、本学教員がインドネシアおよびタイで「PARE実習II・演習II 」を開催できるよう体制を整備。
・学内外の海外留学支援制度に申請し、奨学金獲得の拡充を推進する。

質の保証を伴った交流枠組みの推進

・補助金終了後も質の保証を伴った交流枠組みを担保するため、コンソーシアムで改めてシラバスを議論し、各パートナー大学においてもPARE基礎科目を開講、コンソーシアムとして成績認定がしていけるよう検討する。
・コンソーシアム大学とインターネット会議システムを利用してこれからも会議を定期的に開催、本プログラムの継続を推進する。

関連機関および産業会との連携

・外部資金への申請も視野に入れ、拡充を推進。
・草の根技術協力事業－自治体等および民間企業との連携を積極的に模索する。
・今後もインドネシア・タイの教育省、開発援助団体および国際機関等を訪問し、関係を深め連携を模索する。
・キャリアガイダンス、キャリアカウンセリングやビジネス講座、模擬面接、企業へのインターンシップなどを提供。
・留学経験が就職活動に有利に働いた事例をウェブサイトで公開。

開発する４つの力の持続

・フィールド研究力：調査力、現地語コミュニケーション能力、現地への対応力、チームワークの貢献精神。
・多様性容認力：ASEANの民族・文化・価値観に対する包容力、寛容性、異文化理解力、柔軟性、協調性。
・開発力：夢を語る力、共同体牽引力、プロジェクト展開力、リーダーシップ。
・課題解決力：創造する力、主体性、社会貢献意識、不屈の精神力。